

インドネシア:投票率向上に向けて

イーストスプリング・アジア・ナウ

Vol.55

eastspring
investments

4月に行われた大統領選挙では、国を挙げて有権者へ投票の呼びかけを実施

世界最大の直接民主選挙で大統領を決定

- ▶ インドネシアでは、5年毎に大統領選挙が行われます。大統領候補と副大統領候補がペアを作り、そのペア同士で選挙戦を戦います。このため、「誰と組むか」も選挙には重要な要素となります。
- ▶ 大統領選挙は、2004年より国民による直接選挙で行われています。インドネシアの有権者は1億9000万人超ですが、直接投票を実施することによって、国民の声が国家の政治に直接反映されることを目的としています。
- ▶ 投票の大まかな流れは、有権者に届く手紙を持参して投票会場へ行き、候補者の名前と写真が印刷された投票用紙を受け取り、投票したい候補ペアに釘で穴を開けて投票します。
- ▶ 投票が終わった有権者は、投票会場から出る際に紫色の油性インクが入った小さな缶へ小指を入れて小指を紫に染めます。

2019年、再選を決めたジョコ・ウィドド大統領

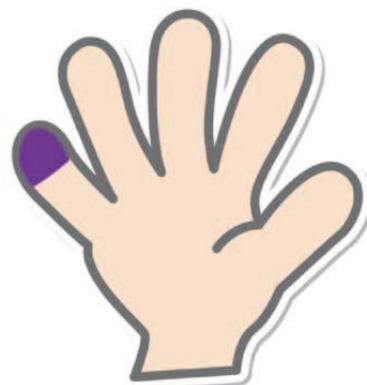


(写真: AP / アフロ)

投票完了を証する紫のインクで割引に

- ▶ 投票完了後に行われる小指へのインクの塗布は、二重投票を防ぐために行われていますが、この紫色のインクは国民がより選挙に参加するための施策としても活用されています。
- ▶ インドネシアの一部の飲食店・小売店では、このインクが付いた指を見せることで割引等を受けられるサービスを行なっています。
- ▶ このように、民間企業でも、有権者が選挙に行く動機づけとなる施策を行っており、国全体で国家の政治に参加する仕組み作りがなされています。

投票完了後の有権者の手 (イメージ)



※ イーストスプリング・インベストメンツ作成

紫のインクの影響は個人のSNSにも波及

- ▶ 飲食店や小売店が紫のインクを活用して投票率向上、集客誘導に取り組む一方で、インドネシア国民の個人の生活にも、この紫のインクは影響を与えています。インドネシア国民の中には、投票を行った後紫色のインクに染まった指を写した画像を個人のSNSにアップロードし、投票が完了したことを家族や友人に報告する人もいます。
- ▶ スマートフォンの普及率が高く、有権者の4割以上がミレニアル世代（1980～90年代生まれ）といわれるインドネシアならではの「SNS映え」投稿といえます。このように、本来は二重投票を防止するために取られた措置が、今やインドネシアの民間企業や個人レベルにまで影響を与えています。
- ▶ ジョコ大統領の2期目は10月に始まります。インドネシアの大統領の任期は最大で2期10年と決まっているため、同氏は2024年以降の大統領選には出馬できません。

※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。※また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。※また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号 / 加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

英国ブルーデンシャル・グループ 